

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆうゆうてらわき
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県五島市岐宿町松山513-1
記入者名 (管理者)	松下 登美恵
記入日	平成 19年 12月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念をつくり、皆が解かるように玄関前ホールの見やすい場所に掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時唱和することで、職員間で認識を深め、日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には入居される時に説明したり 3ヶ月1回のホーム便りを活用したりしている。地域住民にはあいさつや話しはするが、理念までは説明者していない。		地域の方にも当ホームの理念や内容がわかる様に掲示板を利用して情報開示し理解して戴けるように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり話しをしている 近隣の方から野菜や魚の差し入れがあり利用者全員で美味しく頂いている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、クリスマス会には、保育園の歌、踊り、太鼓などを披露してもらっています。近隣の方にも声掛けや広報を貼り参加していただき一緒に楽しまれている。		園児の微笑ましい姿に 入所者の方々も大変喜ばれる。今後とも継続してお願いしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>近隣へお住まいの高齢者等の安全を考え、安全運転・徐行運転に努めているが、その他具体的な地域貢献までは力が及んでいない。</p>		<p>地域性を十分考慮し、具体的な地域貢献を検討していく。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果、ミーティングで報告し、改善できるように話し合いをしている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議時は現在の状況報告を行い、今後取り組んでいきたい事を話しあっている。サービスの向上につながる意見は、職員会議時を活用し再検討している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の時のみ、話し合いをしている。</p>		<p>市町村との連携は困難、協力が得られない 又 どの様に連携をとればいいのか解らない。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ研修には 毎年参加しているが、個々の必要性までは話し合いを行っていない。</p>		<p>今後、研修を活かしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>サービスを提供する上で、利用者の意向に添うように対応できているか、思わぬところで虐待につながっていないか、職員でよく話し合っている。</p>		<p>高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をつくりたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結んだり解約をする際は、必ず本人、家族と面接を行い、十分説明した上で家族の意向を確認している。お互い納得できてから契約・解約の手続きを行うようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。利用者の意見、不満、苦情等はミーティングで話し合いをしている。</p>		意見・苦情箱を玄関にて設置して、対応できるようにしている。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3ヶ月1回 家族便りを発行している。面会時には状況を話している。金銭管理は出納帳に記入し、毎月家族へ送っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の案内を家族に送り、その際に意見を伺う時間を設けている。入所時の書類「重要事項説明書」の中で外部の苦情相談を受け付ける機関を書面にて記し説明も行っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング等で話し合いされている。運営者・管理者は共に職員の要望や意見を聞く様に心掛けているが、不満や苦情は言いにくい部分も多いので把握しきれない場合もある。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急時・外出時など、職員同士お互いに協力しながら勤務の調整が出来ている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者・家族への信頼関係を築く為にも顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る場合も利用者きちんと紹介している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人外での職員のレベルに応じた研修への参加を勧めている。法人内での研修についてはなかなか実施できていないのが現状である。</p>	<p>法人外での研修をあまり受けたことがない職員もいるので(非常勤者含む)皆が受けられるようにする。法人内研修については計画を立てる。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の勉強会・研修会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員からの意見・要望(公休日希望含む)を聞き入れる努力をしており、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫に取り組んでいる。又、自分自身でもストレス発散してもらっている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者も頻繁に現場に来ており、利用者や過ごし方、個別職員の業務や悩みを聞きながら職員が働けるよう心掛けている。又全職員の勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるような言葉掛けをしている。</p>	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人との面会をケアマネを中心として何度か行い又、近隣家族構成と状況把握に努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談があってから、現在生活している状況を把握する為、必ず事前の訪問をしている。その際本人の意向を確認し、どのようなニーズがあるか確認している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や御家族の思いや状況を確認しスタッフ全員と話し合いをし改善できるようにし必要なサービスにつなげるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に施設見学をしてもらったりケアマネが自宅訪問をしてもらい施設での生活に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、利用者に教えてもらう時もありお互いが協働しながら支えあう関係を築くようにしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事に出来るだけ参加してもらえるように電話・書面にて連絡し、一緒に支えていく関係を築けるよう努力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族への面会の継続・電話・手紙での連絡を協力してもらい、良い関係作りを支援している。又、トラブルがあった際には施設側が仲介役になり話し合いの場を設けている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続ける利用者や地域に暮らす馴染みの知人、友人等の家に遊びに行ったり、継続的な交流が出来るようにしていく。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について、すべての職員が共有できるようにしている。心身の状態や気分・感情で、日々時々変化することもあるので注意しながら見守るようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	当施設は死亡又は入院の時点で契約終了となるが家族とは、顔を合わせた時に挨拶を交わしている。入院中の方に対しては、定期的に見舞い、医師や家族と今後について話し合う機会を設けている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに記載し、月1回のサービス担当者会議時に職員間に周知し、把握できるように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時に基本情報に記載し、各自目を通せる環境にしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の出来ない事より出来る事に注目し、一人ひとりの生活リズムを理解しながら、ケアプラン・カルテに記載し各自把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の達成状況等を評価すると共に、職員が記録する利用者の状態変化や状況・家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。3ヶ月毎、状態に変化が見られる時等計画を変更し、対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員に気付きや利用者の状態変化は個々のカルテに記入し、職員間で情報共有している。介護計画に沿っての記録が書いたり書かなかったりと曖昧である。		介護計画に沿った記録を書くよう徹底していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて通院・買い物等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・保育園児による慰問、小学校児童によるお便り送付、消防署等による防火対策支援を充分活かしている。		今後はこれまで以上に外部の方の協力が得られるように機会を設けていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅ではないので支援していない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	研修には参加しているが今のところ該当者おらず、地域包括支援センターとの協働は無い。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携を結んでおり、かかりつけ医による2回/月の訪問受診 及び担当看護師による1回/週の訪問看護をうけている。他 受診は通院介助を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医に受診することもあり、処方方は嘱託医が行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護職員と訪問看護師とは、気軽に相談できる関係ができしており 看護師と医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に関しては、担当医の紹介により地域の病院との連携が行えている。又、入院中はできる限りお見舞いし、言葉掛けをしたり病院関係者から情報をもらっている。個人情報についても充分配慮しており入所時 家族より承諾を得ている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、入所時本人・家族より意向を聞いて書面にて記録している。その後変更があった場合についても変更可能としている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、安心して最期を迎えられるように、随時意志を確認しながら取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境が変わる際は今後お世話する担当者に介護サマリーにて状態を報告し、ダメージが少なくなるように情報提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	一人ひとりの人格を尊重するよう心掛けている。又、職員全員が守秘義務について十分理解している。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	本人の希望などを言える環境の提供に努めているがまだ力不足を感じる	更に利用者に合わせて声掛けし、意思表示が困難な方には表情・動作を観察し対応できるようにしていく。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	個人のペースに沿って生活が送れるように努めているが、最近 各個人の心身の状況により全入所者の希望に添えないことが多い。	重要な課題として早急に対応策を検討する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	朝の身だしなみは、その人の状況に応じて対応している。理美容は本人、家族に希望を聞き金銭の関係もある為連れて行く方もいるし、ホームで職員が行う人もいる	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	盛り付け、片付け等もしていただいた頃もあったが、今では声掛けしても拒否されることが多く職員でやることが多い。食後の下膳は自主的に行う利用者もいる。	上手な声掛けをし一緒に出来るようにしていきたい。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	職員は利用者一人ひとりの嗜好物を理解し、本人の様子・時間をみながらそれらを楽しめるようにしている。喫煙は職員見守りの上所定の場所にて喫煙していただき喫煙具については事務所に保管している。他の利用者の迷惑にならないよう喚起のよい場所で吸えるように支援している。又、行事の際はお酒を勧めることもある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意・便意のある方は訴え時 トイレ誘導し、訴え困難な方については、排泄チェック表にて全職員が排泄状況を把握し時間を見て対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴時間は毎日午後と決めているが時間を問わず、希望やタイミング(排便失敗時等)に合わせて入浴・シャワーできる様に努めている。しかし時折は職員の都合によることもある		なかなか入浴したがらない利用者の対応が難しい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室にて生活環境に沿った生活はできている。眠れない方には主治医に指示を受け薬を処方している。自由に休息出来る様な環境を整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーション、行事参加にて気分転換をし、役割を持ち生活できるようにしている。得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。散歩・ドライブ・買い物等の支援もしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理は職員が行っているが、お金を持つことを希望している入所者は家族の希望や同意の下、小額ではあるが自分の財布を持ち自室にて管理している。買い物の際も自分で持ち出掛けられ支払される。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者からどこかに連れて行ってほしいとの希望がある時は、その時の状況に応じて出来るだけ外出するように対応し、季節を肌で感じてもらうように心掛けている。事業所の買い物等もドライブを兼ねたり、行事の際も弁当持参で出かけている。(花見等)		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅へ帰宅したり、墓参り等の希望がある場合は家族に相談し、対応してもらったり 場合によっては家族の承諾を得て職員で支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りを希望する利用者がある場合は、希望に応じて切手便箋等を準備したり、代筆したりしている。電話は事務所の電話機を利用して頂き、希望に応じて電話帳にて番号を調べる支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族も実家を訪ねるような気軽で来やすい雰囲気作りを心掛けている。来客時には利用者の居室(個室)に案内しゆっくり過ごしていただけるようお茶やお菓子を出している。帰られる際には、「いつでも遊びに来てください」と声掛けしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で利用者の対応について話し合いをする場合、その内容が身体拘束につながっていないかを十分検討しているが、全職員が「身体拘束をしないケア」について十分理解していない為、ケアの統一がされていない場合もある。		身体拘束についての研修会へ参加し、又法人内でも勉強会を開催する等「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解する。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者によっては夜間、内部から鍵をかける方もいる。昼間でも職員がどうしても足りない場合は一時的に鍵をかけることもある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	仕事をしながら、さりげなく全員の状況を把握する等、所在の確認は職員間で定着している。夜間は定時に巡回をし様子確認し、起きられた時にすぐ対応できるようにしている。プライバシーの配慮もほぼできている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の管理能力に応じて、保管すべきもの・保管管理が必要なもの・利用者が使うときに注意が必要なもの等に分けて管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	知識はあると思うが一人一人の状態に応じた事故防止までは十分でない状態である。食事支援や服薬の方法・煙草を吸う方への気配り、防火対策として防火訓練を実施し防火素材の活用もしている。		介護計画に取り入れ状態に応じた事故防止に努める。定期的に研修も実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変に備え、連絡網を活用し嘱託医等への連絡をスムーズに行い迅速な対応ができるようにしている。地域の消防署の協力により、応急手当についてのマニュアルに沿った普通救命訓練を定期的実施し万が一の事故や急変に備えている。		年1回の普通救命訓練講習を実施し救急時、職員全員対応できるよう取り組んでいる。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難誘導訓練を含む消防総合訓練を年2回実施している。その際地域の消防団の協力を得て合同訓練とする場合もある。日頃より近隣の方々へは協力を得られるようお願いしている。		火災をださないよう火の後始末、ガス等には気をつけ確認し毎日を安心して過ごせるよう取り組んでいる。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族への説明は管理者が行ない、ミーティング時など利用して職員間の意識を統一し、抑圧感のない暮らしを心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや本人の状態を観察し記録することで職員間で情報を共有し、主治医へ報告し指示を仰ぎ対応している。朝のミーティングを活用して申し送りも行い早期対応が出来ている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、こちらで預り、毎食本人渡し服薬して頂く。出来ない方には介助し服用してもらう。利用者の内服一覧表を作成し分からないときはそのファイルを見て調べられるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防については主治医と相談しながら、対策を考え服薬・飲食物の工夫などしている。又、散歩に誘ったり、レクリエーションを実施するなどし身体を動かす働きかけを行っている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの研修に積極的に参加し必要性を十分理解し、毎食後の歯磨きの声掛けを行い、見守りを行っている。出来ない方には、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄、ポリデントにつけて対応している。		現利用者のうち、歯磨きを嫌がる方がおられ、どうしたらスムーズに歯磨きが行えるか、繰り返し職員間で話合っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、利用者の状態に応じて食事形態を工夫し栄養のバランスを考えながら季節に合った献立を考えてる。水分に関しては、主治医の指示に従い一人ひとりの状態に合わせて提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては、職員は勿論、利用者も家族の了解を得た上で予防接種している。その他の個別の感染症についてのマニュアルは作成されておらず対応が不十分である。消毒方法・掃除方法は決めている。		個別の感染症マニュアルを作成し活用できるよう取り組んでいきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布きん等調理器具は、食中毒予防の為に定期的に漂白し清潔に心掛けている。献立に合わせて3日分程度の食材を発注し冷凍できる食材は冷凍保存し解凍時はその都度レンジ使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関から自由に出入り出来、スムーズに移動できるようスロープを設けている。玄関前の庭は自由で安心して散歩できるように、広々と作っている。明るい雰囲気のある玄関になるように花を飾ったり玄関先にプランターをおいたりして季節感を演出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間で暗く感じる所は明るくなるよう照明をつけている。(悪天候日)又、目で見て楽しんでいただけるよう、廊下には落ち着いた雰囲気のものや季節の花を飾り季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。毎月のカレンダーも四季に合わせて手作りしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には段差の無い畳を敷き、そのスペースには暖房器具・テレビソファ等設置し自宅にいる時と同じ感覚を持てるよう工夫している。廊下端のスペースには椅子を置き、そこで利用者同士が自由に過ごせる居場所を提供している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団やタンス、衣類など 家族と相談しながら、使い慣れたものや好みの物を持ってきてもらい安心した生活が出来るようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気との温度差がある時は温度計と利用者の様子をみながら調整している。空気の入替えは、毎朝掃除時行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場、浴槽には手摺をつけ、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室・便所・浴室等にはプレート(表札)をかけ、場所の混乱を防ぐための工夫をしている。状態が変わり、新たに混乱・失敗が生じた場合は、その都度全職員で話し合い本人の不安を解消し、自立して暮らせるように支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には花を植えたり、畑には季節の花を植えたりして、利用者が楽しみ活動できるようにしている。玄関先にはベンチを置き、日光浴・涼んだりできるよう工夫している。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地元以外の方でも、利用者・家族共に安心していただけるように、頻繁に心身や生活の様子などお伝えしている。
 地域の方が利用しやすいよう、利用料金の設定を安くしている。
 医療機関との連携体制が整備され、重度化した場合や終末期の対応など医療面で安心していただける。
 家庭的な雰囲気大切に、田舎の落ち着いた暮らしができる。